

組合

New Face!

★
企業組合 旬菜工房
笑み



中西理事(左)と森井理事長(右)

山の中の「笑みの市」

企業組合旬菜工房笑みは、毎月第1土曜日にJAいがほくぶ比自岐ふれあい店^(※1)で「笑みの市」を開催し、地場産の農作物等を販売しています。

また、毎週火・金曜日にはうえせん白鳳プラザ^(※2)で、第4日曜日にはヒルホテルサンピア伊賀^(※3)で開催されるフリーマーケット等に出店しており、地元や伊賀市内の方だけでなく、津市からも新鮮な野菜等を求めて買い物客が訪れます。



笑みの市

山の中の「ひじき(比自岐)」

当組合がある「比自岐」地域は、伊賀市中部の丘陵地が多い山間部です。

平成19年に、地域の中心的存在であった比自岐小学校が休校となり、荒れ放題となったので、地元の有志が校内の花壇の整備や、校舎の清掃などを行っていた時のこと。

家で作っている野菜が残ると、捨ててしまっているという声を聞いた当時の比自岐公民館長から、「もったいな

このコーナーでは、平成25年度以降に当中央会に加入いただいた組合の活動状況等をご紹介します。

平成26年9月に設立、当中央会に加入された「企業組合旬菜工房笑み」の森井八枝子理事長と中西加代子理事にお話を伺いました。

海と山の幸で活性化

いから直売所をやったら」と提案があったのが「笑みの市」開催のきっかけです。

山の中の「魚?」

「笑みの市」では、採れたての野菜の他、焼きたてのパン、切りたての肉、そして、獲りたての魚の販売も行っています。

“山の中なのに魚!?” 実は、魚は鳥羽市答志島から直送されたものなのです。

新鮮な魚の販売ができるようになったのは、平成16年度に市町村合併した伊賀市が、各地域で自主的な活動を行うよう促した際、地域を盛り上げるためにどのような活動をしようかと当地域の住民が研修会等で学び、検討し、そして、平成17年7月に、地名「比自岐」に繋がる県内有数の海藻「ひじき」の産地である鳥羽市答志島の答志町との交流に結びついたことがはじまりです。

その後、比自岐の祇園祭や芋掘り体験に答志町の人々を招いたり、比自岐と答志町の子もたちで、コスモスの種を蒔いたり、答志町での海水浴や七夕まつりに誘われたりと、平成17年から欠かすことなく交流は続いています。

比自岐から答志町までは、車と船を乗り継いで3時間以上かかりますが、中西理事は、答志町は、まるで実家のような場所であり、答志町に行くことが苦にならないと頻りに行き来しています。

そんな温かいつながらから、山間部



コスモスの種蒔きの様子

“比自岐”での答志町の新鮮な魚の販売が実現したのです。

一方、特産品の主となる農作物づくりは、高齢者の健康づくりや生きがいづくりに役立っていますし、農作物は、畑仕事をしていない高齢者には、近くで買うことができ、安心して食べられると喜ばれています。

山の中の「企業組合」

森井理事長が企業組合を設立しようと思ったのは、法人化して“設備や環境を整え、比自岐地区を更に活性化させたい”との強い思いがあったからで、平成26年9月に企業組合設立となりました。

設立後は順風満帆。加工所を整備し、答志町とのコラボ商品であるひじきの粉を練り込んだこんにゃくの販売も始めました。

また、「茎わかめとしいたけの佃煮」も好評で、今後は、地元の人を招いての収穫祭、レストラン経営など、当組合がやりたいことはまだまだあり、実現に向けて、目下邁進中です。



茎わかめとしいたけの佃煮

DATA

企業組合 旬菜工房笑み

〒518-0105 伊賀市比自岐175番地

TEL.0595-37-0738

FAX.0595-37-0738

組合員数/34名

設立/平成26年9月1日

中央会加入日/平成26年9月1日

(※1) JAいがほくぶ比自岐ふれあい店(伊賀市比自岐159-1)、(※2) うえせん白鳳プラザ(伊賀市上野東町2957)、(※3) ヒルホテルサンピア伊賀(伊賀市西明寺2756-104)